



「寄り添う保育」と「熱血指導？」

入園・進級式がつい先日前的のように思い出されるのですが、いつの間にか若葉美しい5月になりました。新入の子どもたちの生活も少しずつ落ち着いてきましたが、子ども目線に立てば、一クラス20人もの子どもと一緒に遊び、生活する空間、「先生」と呼ばれる大人がたくさんいる場というのは、家庭と違って、きっと中々落ち着けない、緊張の毎日なのです。帰宅後は、疲れて早く寝てしまう子たちも多いと思います。

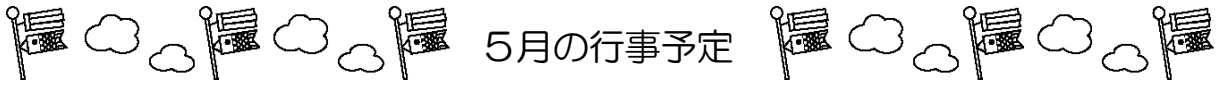
そういう緊張が安心に変わり、心地よさになっていくよう、いろいろな活動や遊びを提供し、くつろげる場を工夫して作るのが幼稚園の先生の仕事なのですが、そこには「言葉」と「もの」をどう工夫するかという大切なポイントがあります。

お母さんと別れて不安になり、朝から大きな声で泣いてしまう子・・・。「泣いたらダメです。」なんていう言葉は、言葉としては全くダメで、不安と悲しさに震えている子に、禁止言葉を使うというのは、まったくの逆効果。ほとんど脅しです。また、「なんで泣いてるの」なんていう質問言葉は、もっとダメですね。理由が言えれば苦勞しませんし、大人でもそんな理由が言える人なんていません。このあたりの「禁止」「質問」言葉は、教育上最も意味のない大人言葉です。

これを思わず言ってしまう大人が少なからずいるのですが、幼児期の教育ではこういう禁止や質問という指導ではなく、子どもの今の気持ちを肯定し、受け入れる言葉が必要です。「お母さんと離れてさみしいねえ。涙が出るねえ。」「一緒にいたかったねえ。」という、子どもの感情や思いにしっかり寄り添う言葉が何より大切なのです。子どもが安心できる第一歩になる言葉で、子どもの感情を否定せず、そうだよね、無理ないよねと肯定的に受け入れる姿勢を「カウンセリング・マインド」と言います。

そして、泣いている子が少し落ち着いてくると、子どもと一緒に興味を持つものを園内で一緒に見つけてみる。保育室の玩具であったり、絵本であったり、園庭の虫や草花・・・。手で触れて動いたり、変化したりするものに目が行くと、スッと泣き止んだりするその瞬間、「あっ、面白いものがあったね、なんやろうね。あれあれー。」と一緒に気づき、面白がってやると、今度は自分から話し出す子がほとんどです。小さなやり取りをしていると、子どもはドンドン落ち着いてきます。これを「寄り添う保育」と言います。

大声を出してルールや知識、技術を教え込み、ダメ出しの連続で、子どものおしりを叩いてでも引っ張っていく熱血指導が良いという世間の常識がありますが、体力、知力が一定育ち、判断力のある中高生、大学生ならそれも良いでしょう。しかし幼児教育の最も基本になるのはこうした「寄り添う保育」の徹底であり、子どもの気持ちの安定の上で、夢中、熱中する遊びや活動の中で育てていくという事なのです。5月、6月と続く保育の中で、この寄り添う保育の成果が着実に実ってくることをご期待ください。



5月の行事予定

7（月） 衣替え 下記および別紙参照。

同日 新入園児の預かり保育受入れ開始

8（火） 保育料振替日 年長組は5月より英語プレイタイムの代金が月 500 円プラスとなりますのでお間違いのないようにお願いいたします。

18（金） 年中・年長組 春の遠足 【晴天の場合】年長組、年中組→万博公園
【雨天の場合】年長組、年中組→京都水族館

同日 全学年 お弁当日 ※遠足に行かない年少組もお弁当持参です。

23（水）、24日（木） 両日午前保育、午後から一学期個人懇談会 詳細は別紙参照。

25（金） 防犯訓練を行います。

※中旬～下旬 年長組・年中組 身体計測

下着、シャツ類には必ず名前を記入のこと。また女の子は身長などが計測しやすいように、ヘアースタイルは考慮して下さい。※年少組は6月上旬、に身体計測を行います。



お知らせ



◎着替えについて～幼稚園でおもらしをしてしまった場合や、服が汚れたりした場合、特に年少さんは毎日お持ちいただいているお着替えを着用しております。しかし、それが足りなくなった時や年長・年中さんなどは幼稚園の貸し出し用の物を着用して降園します。その際は、必ず洗濯し後日お忘れのないよう返却してください。宜しく願いいたします。

◎衣替えについて～5月7日より衣替えとなり、パイル帽子、夏の制服、グレー（または紺、黒、こげ茶）ソックス（短）で登園となります。寒いときは下に夏の制服そのうえに冬のトレーナーの体操服を着て下さい。ワッペン（バス又は徒歩）を付けるを忘れないように。詳しくは、既に配布済みの別紙と入園のころえ参照。

◎水筒持参について～入園時にもお伝えしている様に、持参できる水筒は肩からかけられるコップ付きのタイプのみです。水筒の開け閉めの動作や、自分で飲む量を調節しながらコップにお茶を注ぐといった躰を指導する為、本園ではコップタイプの水筒をお願いしております。上記の内容と、衛生面も考慮した上で、ストロータイプや直接口を付けて飲むタイプは禁止していますので、ご注意ください。（3歳児クラス以上）また、持参するお茶の量も季節によって調整していただきますようお願い致します。